

# 2014年度 第2回男女共同参画推進ワークショップ

## 2014年度 第2回男女共同参画推進ワークショップ 「女子学生大学院進学促進ワークショップ」



### 趣旨

研究者・高水準の技術者への入り口としての大学院進学に男女差がある。

女子学生には、大学院進学の必要性・メリットを認識し進学のモチベーションを形成し、進学の障害があるとしたらそれを取り除く途を考える機会とすること、大学としては、女性を理工学の中核的人材として育成輩出していくために、女子の大学院進学を促進し、さらに、大学院において高い目標設定・モチベーション形成機会を提供するための施策を検討する。

〔日時〕 2014年10月16日（木） 17:00～18:30

〔会場〕 豊洲キャンパス教室棟304室

〔参加者〕 学長、副学長、大学院理工学研究科長、教員5名、職員1名、

大学院後期博士課程生1名、学部学生1名

### プログラム

挨拶 村上雅人学長

趣旨説明と課題提示 國井秀子男女共同参画推進室長

発題「進学と出産」 大学院理工学研究科博士（後期）  
課程地域環境システム専攻 芳賀 絵美

グループ討論（2グループ）

成果共有

挨拶 米田隆志副学長

### グループ討論の概要

プレゼンテーションをしてくれた大学院理工学研究科博士（後期）課程地域環境システム専攻生と参加してくれた工学部機械工学科3年次女子学生の意見を聞くことを中心に、グループ討論が行われた。討論を通じて以下のことが確認された。

女子学生の進学モチベーションの形成について

1. 女性の中核人材育成が社会的課題となっている現状、女子の大学院生期が年齢的には結婚や妊娠・出産が考えられる時期であること、とくに工学の女子学生は他分野の学生に比べてロールモデルに出会いにくい環境にあることなど、女子に固有の課題がある。
  - ・低学年の女子学生を対象を絞って、大学院進学の可能性・メリット・キャリアパス、女性人材への社会の要請やSGU採択等女子学生にとって今が好機であることを知る機会を設定していく必要がある。
  - ・ロールモデルに出会う機会も必要がある。
2. 前項の機会提供は、任意参加のイベントでは伝達に限界がある。授業への組み込み、学部学科の行事に準じる形での実施等、より多く、できれば全女子学生が聴講する機会として設定する<必要がある。
3. とくに工学部では、女子はマイノリティである。女子どうしの交流も情報交換も少ない。Shiba-joプラチナネットワークが設立されたことも知られていない。女子学生のエンパワメントのための交流機会をもっと作っていただけるとよい。
4. 女子学生本人だけでなく、親・家族に対しても情報提供が必要である

#### 進学を促進し、大学院生を支援する環境整備・しくみづくり

1. 男子に比べて体力面で不安があったり、仮眠や休憩の場所があればと思っている女子学生は少なくないのではないか。女子学生・教職員休憩室の周知と活用拡大をはかりたい。
2. 大学院在学中に妊娠・出産をするというキャリア戦略は、大いにあり得る。ライフイベントと研究者としての研鑽が両立できるような施設設備や支援制度も、できることから1つずつ整備していただけるとよい。

#### 今後に向けて

多くの教員、学生に参加頂ける日程と体制が組めなかった。体制面では、男女共同参画推進室女性研究者育成・支援WG単独の活動ではなく、他WGあるいは学内他部門との協働活動として取り組めるようにしていきたい。

お問い合わせ先

**芝浦工業大学  
男女共同参画  
推進室**

〒337-8570 埼玉県さいたま市見沼区深作307 (大宮キャンパス)

E-mail:desk-gequality@ow.shibaura-it.ac.jp